

【町長】

通告順	6	質問 議員	伊藤議員
質問 項目	日本一を目指す加工用トマトの将来について		
質問 内容	<p>町が運営してきました農産加工場ではありますが、来年度より民間指定管理者にての運営が始まります。以前より加工用トマトの産地として日本一を目指していきたいと町長は発信されていますが、作付面積の拡大による収穫量の増大が必須であります。加工用トマトの作付け奨励などの対策も行われていますが、生産者の増加にはご苦労されているものと推察する所から、実現への方向性を質問致します。</p> <p>日本一の加工用トマト生産を目指すには、面積や収穫量の数値目標を持ち、計画を立て、実行していくことが必要と考えます。</p> <p>作付面積の拡大については、収穫作業が重労働であり、労働の負担を軽減する機械収穫は欠かせない要件であります。</p> <p>生産量が増えることにより工場の受け入れ能力が不足することによる設備投資等は考えられるのか。</p> <p>新たな栽培技術が指定管理者の販売方針と合致せず、生産拡大の障害とならないか</p> <p>加工用トマトを一次加工し、雪貯蔵などして食味の向上など付加価値をつけて製品を作ることの研究実績はあるのか</p> <p>を質問いたします。</p>		

【町長】

通告順	7	質問 議員	篠原議員
質問 項目	コロナ禍を乗り越えるためにやるべきことは何か		
質問 内容	<p>今年突然降りかかってきたコロナ禍に立ち向かうために、沼田町も独自に様々な対策を打ってきました。それについて、これまでの議会における議論では町長は優先度の高いものから取り組んでいくという方針を示されました。しかしその施策の中には若干疑問符が付くものもあったように感じます。つまり、施策の優先度を決めるときの基準が地域経済の維持にあるのではないかというように思えるのです。もちろん私も地域の経済が衰退してもしかたがないなどというつもりはありません。ただ、町民が安心して生活できるための対策をまず優先することで結果的に地域の経済も回っていくのではないかと考えます。町長のお考えはいかがでしょうか。</p> <p>次に、以下の対策事業については町民の安心・安全をより充実させるためにさらなる拡充の可能性がないかお聞きします。</p> <p>①役場庁舎（保健福祉課、教育委員会を含む）の感染防止対策として窓口にアクリル板が設置されたが、職員相互のデスク間にも透明な仕切り板を設置できないか。</p> <p>②新生児特別給付金（10万円）を引き続き次年度も継続することはできないか。</p> <p>③高齢者等福祉対策灯油の実施が予定されているが、感染症予防対策で燃料費がかさむのは高齢者等の世帯だけではないはず。もっと幅広い世帯に拡充することはできないのか。</p> <p>④医療・福祉の職場や、児童福祉の職場で働く職員への慰労金が支給されているが、コロナ禍で消毒・清掃などで労働負担が増加している職場（施設管理、学校など）にも慰労金を支給することはできないのか。</p> <p>以上よろしく申し上げます。</p>		

【町長】

<p>通告順</p>	<p>8</p>	<p>質問 議員</p>	<p>篠原議員</p>
<p>質問 項目</p>	<p>J R 留萌本線存続は沿線自治体の連携で</p>		
<p>質問 内容</p>	<p>先ごろ J R 留萌本線存続問題に対して、留萌市長が留萌市から沼田町間の部分廃止を容認する態度に転換したため、事態が急展開しています。鉄道本来の意義を考えたときに全線存続が理想であることはいまでもありませんが、次善の策として深川市から沼田町間の部分存続のための方策を考えなければなりません。一方、J R はあくまでも輸送密度が 200 人未滿の線区は廃止の上バス転換が前提で議論を進めています。とはいえ、近年バスの運行は運転手確保の問題などから今の J R ダイヤ並みの運行が保証されるかは不透明である上、運賃も割高となります。そこで、鉄道存続に対する国や J R の責任という問題の本筋からは外れますが、ひとまず地元としてできる利用促進策を考えなければなりません。</p> <p>現在沼田町から深川市間の利用実態としては高校生の通学が最も多くなっています。その他は、仕事やレジャーでの旭川や札幌への特急乗り継ぎ利用が考えられますが、これはやはり自家用車の利用が多いのが実態です。深川市立病院の受診については運賃が割高でも直接乗り入れるバスの方が便利です。つまり現状での町民の利用を考えたときには、乗車率はほぼ頭打ちの状態であると言え、減らさないということはあっても今より増えるということはあまり期待できません。新型コロナの影響で海外からの旅行者をはじめ、大口の旅行需要が完全に冷え込んでいることからこれも期待できません。</p> <p>そこで考えられるのは沿線自治体の連携による利用喚起です。例えば、沼田から J R を使って深川市立病院を受診するときに、深川駅から病院までのハイヤー代の一部を補助する、他の町から J R を使って沼田まで来て、幌新温泉や化石体験館に行くために町営バスに乗り継いだときのバス代の半額を補助するなどの取り組みです。J R を使ってそれぞれの町で飲食をするときに特典を付与するということもできます。他の自治体住民のためにお金を使うことになるのでお互いの連携ということが重要です。これを進めるためには役所だけでなく、商工会や観光協会なども含めた協議体の設立が必要になると思います。また、沼田町独自の課題としては J R から石狩沼田駅や恵比島駅で乗り継いで幌新温泉に向かう場合の接続問題があります。現在のダイヤでは乗り換え時間が空きすぎて深川方面からの日帰りは大変不便な状況です。</p> <p>新型コロナが終息した暁には大口の利用策も打ち出すことができますが、今は密にならない程度の家族やグループでの利用を促す、そのために沿線自治体で連携を行うということについて、町長の考えはいかがでしょうか。</p>		

【教育長】

通告順	9	質問 議員	長野議員
質問 項目	町民に開かれた沼田の教育を		
質問 内容	<p>沼田学園推進室が設置され、「沼田っ子アクションプラン」が示されました。</p> <p>沼田学園 が目指す子ども像は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夢や希望の実現に挑戦し、自己実現を目指す子ども ・ ふるさと沼田に誇りを持ち社会を逞しく生き抜く子ども <p>と、謳われています。</p> <p>昨年立ち上がった、沼田学園コミュニティスクールは、地域の声を生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを目指すものです。</p> <p>それを実現するための「沼田っ子アクションプラン」であると認識していますが、町民には十分に伝わっていません。</p> <p>なぜ、コミュニティスクールなのか、児童生徒・保護者・教育関係者約300人と子どもをのいない一般町民2,700人を結びつけるためのPRや方策が、子どもたちの未来と沼田町のまちづくりのために必要不可欠ではではないでしょうか。</p> <p>コミュニティスクールを掲げた沼田学園の教育を今後どのように町民にアピールし、どのように進めて行くのか、教育長の考えを聞きたい。</p>		

【町長】

通告順	10	質問 議員	大沼議員
質問 項目	一般行政（コロナ禍でも移住促進を）		
質問 内容	<p>厚生労働省が今年2月から全国の労働局やハローワークを通じて集計した結果、新型コロナウイルスの感染拡大に関連した解雇人数が7万人を超えたと11月9日に発表しました。</p> <p>感染拡大に関連した休業者や失業者は働くことに強い意欲を持っていると思います。</p> <p>コロナ禍で活動が鈍くなっている時こそ、その人達が前に進めるような施策を本町から発信し移住につなげることができないでしょうか。「ぬまわーくサポートデスク」をはじめ沼田町には移住定住施策があります。コロナ禍で困っている方々に移住定住施策をワンプランにまとめ積極的にアプローチを試みることができると思います。町長のお考えをお尋ねします。</p> <p>（ワンプラン例）「沼田町で働きたい人応援隊」を設け本町の移住策を積極的に道外に発信</p> <p>総務省が令和元年9月に発表した「通信利用動向調査」によるとテレワークを導入している企業は20%でしたがコロナ禍でのテレワーク導入率は47%になっています。</p> <p>自宅でテレワークをする人が多いのが現状のようですが、自宅やオフィス以外の働く場所や環境が欲しいという声もあります。海や山など自然に囲まれて仕事がしたい方や場所の縛りがない環境で働いている人たちもいます。企業の意向調査と沼田町のPRを行うことで勧誘できると思います。町長の考えをお尋ねします。</p>		